

書 評

電力新報社発行

資源エネルギー庁 監修 定価 2,900円

電力産業の経営改革

評者 青 柳 雅*

Tadashi Aoyagi

我国では、21世紀に向けても引き続き活力のある社会を維持するために、エネルギーの分野に限らず、あらゆる分野において、従来の社会のあり方を見直す動きが盛んに行なわれている。具体的には、規制緩和、情報公開、市民参加等の言葉で表現されているテーマが、この一連の動きに対応している。

エネルギーの分野においても、当然この例外ではなく、石油・電気、ガスの各分野において、規制緩和に向けて今後どのようなフレームで対処すべきであるかという作業が行われているが、本書は電力の分野における検討結果についての報告である。

電力についての規制緩和の検討は2段階で進められた。まず、電気事業の規制緩和のあり方に関する検討であり、これに続いて電気料金制度の規制緩和のあり方に関する検討である。前者は電気事業審議会需給部会電力基本問題検討小委員会において、後者は電気事業審議会料金制度部会においてそれぞれ検討がなされた。

わが国の政策決定手順は、有職者から構成される諮問委員会が設けられ、この委員会で与えられた課題について検討を行い、その結果を答申し、これを踏まえて、最終的に行政で決定がなされるという形となっており、電力に関する諮問は、上記の委員会、部会に対して行われた。

本書は、答申案をまとめたものであるが、タイトルが中間報告、中間取りまとめなどになっており、やや中途半端な印象を与える。これはそれぞれの検討会が長期にわたって時代時代のニーズに対応した様々なテーマについて検討を行うため、それぞれのテーマについての検討の進捗は「中間とりまとめ」、検討結果は「中間報告」というタイトルが付される慣習によるものである。

筆者は、不勉強の為行政内部の検討資料が、このよ

うに公けにされた例をあまり多くは知らないが、情報公開を積極的に押し進めていくことが今後のわが国にとっても重要と考えていることもあり、電力分野に関するエポックメイキングとも言える方針転換が打ち出された報告書を書いた本書が出版されたことは実に素晴らしいことであると考えている。なお、本書には、規制緩和検討の前提ともなる需要見通しに関する電気事業審議会需給部会中間報告（平成6年6月21日）もあわせて載せられている。

それぞれの中間報告書の内容は次のとおりである。

「電力基本問題検討小委員会中間報告書」（平成6年6月、12月）

平成6年当時の状況では電力の供給システムにおいて競争的要素が少なく、効率化を図る上で、新規事業者の参入が可能な分野についてはできる限り競争原理を導入していくことが必要である点を指摘し、発電部門並びに送配電部門それぞれの分野における具体的内容について検討がなされている。

まず、発電部門においては、公平かつ透明な入札制度の導入により、潜在的な事業者の新規参入を促し、よってコストの低減を図るとしている。また、入札の方式に回避可能原価を導入することにより、既存の電気事業者の電源開発の一層の効率化努力が促されることが期待できるとしている。

また、送配電部門については、コージェネレーションによる供給事業を可能とするための新制度（卸託送制度）を設け、これに併せて従来の電気事業法で定められていた特定供給制度についての見直しを行うことで、電力供給システム全体の効率化を図るとしている。

これらの各制度の具体的なあり方についての詳細な検討が平成6年12月の中間報告においてなされている。

「電気事業審議会料金制度部会中間報告」（平成7年12月）

上記電力基本問題検討小委員会中間報告（平成6年6月）において、電力供給システムの一層の効率化を

* ㈱三菱総合研究所 エネルギー・資源研究部長
〒100 東京都千代田区大手町2-3-6

図る観点から、電気料金の在り方についても検討を行う必要があるとの指摘がなされたことを受けて、料金制度部会が平成6年10月から経営効率化を促す料金制度の在り方、料金の多様化・弾力化による需要対策、さらに料金制度の透明性の3点を柱として審議を行った結果、以下の点について提案を行った。

①経営効率化を促す料金制度の在り方

事業者間の間接的な競争を促す査定手法としてヤードスティック方式を導入する。また、各社の経営効率化の内容を経営効率化計画として公表する。料金の定期的評価を、効率化努力の評価、収支状況及び料金の妥当性の側面から実施し、これらのデータを公開することにより、需要家との直接対話を通じた経営効率化を図る。さらに為替レートや原油価格の変動等経済情勢の変化をできる限り迅速に料金に反映させるために燃料費調整制度を導入し、直近3ヶ月の平均通関統計価格を用いて算出する。

②料金の多様化・弾力化による需要対策

負荷平準化に資する料金を認可制から届出制に移行させることにより、需要家による電気の効率的な使用を促す。

③料金の透明性

ヤードスティック方式等の新方式についての国民的

理解獲得に努めるとともに、電気事業者は経営効率化計画や料金の定期的評価を通じて経営効率化努力、収支状況、料金の妥当性について積極的な公開に努める。

最後に、筆者にとりうれしい本書の特色として参考資料が充実していることが挙げられる。主要なものを掲げると次のとおりとなる。

〔電気料金関係〕

我が国電気事業を巡る状況
料金・経理関係統計
公共料金に係る政府・与党の議論
電気料金の国際比較
電気料金制度に係る検討
電気料金制度改革について

〔電力需給関係〕

国際エネルギー情勢
我が国における電力需要想定
我が国における供給力
電力供給の効率化に向けて

これらの資料が200頁近くにわたり網羅されており、データ集としても本書の価値は高いと考える。

